



武中の風

校訓

「自主」「協同」「永続」「健康」

学校便り令和7年6月号

鹿児島市立武中学校

鹿児島市郡中学校総合体育大会

校長 坂中 裕一

「中体連」。この6、7月は教員に成り立ての若い頃から、いや、私が中学生の時から部活動にエネルギーを注ぎ込む時期であった。各所で応援をしながら、私の最後の中体連を思い出すことだった。私は剣道部だった。最後の中体連では、個人戦の1位から3位までを私の学校の剣道部員3人が独占した。団体戦は5人制であり、基本的に3人が勝てば団体の勝利が決まる。しかしながら、団体戦では県大会出場を逃した。個人戦上位3人を抱えながら、団体戦で勝つことができなかつたことに顧問の先生は憔悴されていた。試合後、保護者を交えての反省会で、顧問の先生が私の母親に対して「顧問を辞めたい。」と吐露されたと聞いた。

先生の心情は、私が剣道部の顧問に付いて初めて推し量れたように思う。団体戦のメンバーは、技量に留まらず、各ポジションの役割が果たせるよう選手の性格なども含め、総合的に判断して決定する。当然、当日の調子も見ながら選手交代も行う。当時のチームは、決して弱いとはいえないチームであったし、そのような中での団体戦敗退で、先生は自らの采配を悔やまれていたのかもしれない。先生は、去年の7月に90歳で亡くなられた。通夜には多くの剣道部の先輩や同期生らが駆けつけた。中には先生の棺の前で素振りをしてみせる者もいた。奥様と話をした際、43年前の私たちの名前を覚えておられた。学校だけでなく、家庭においても私たち部員のことをよく語られていた先生であったのだと思った。

さて、中体連を目前にした部活動の練習を見学して回った。練習場で整然と並べられた靴や鞆を見て、部活動で培われる力を再認識した。また、顧問の先生方が日々の練習で大切にしておられることを感じることもできた。是非、この所作を日々の学校生活や家庭生活で生かしてほしいと願った。また、中体連当日は、荘厳な中で進められる試合、残り僅かな時間の中で笑顔を絶やさず最後まで戦い抜こうとする選手の姿、接戦にもかかわらず笑顔で采配を振る選手たちにいらぬプレッシャーをかけまいとする顧問の姿、多くの観客の中で対一で行われる緊迫感溢れる試合、声を枯らして応援する生徒の姿など、素晴らしい試合を観戦させていただいた。そして、観戦後に感じた「どっと」した疲れは、控えの選手や保護者も同じだったのでないかと思った。これは、観る者とプレーする者の一体感の証だったと思う。

中体連に至るまでの生徒の努力や顧問の先生方のご苦労はもちろんのこと、保護者の皆様にも多大なご協力をいただいたと感謝したい。誠にありがとうございました。これから、県大会に向けて練習を継続する卓球部と弓道部、そして、個人で出場する生徒たちや鹿児島県吹奏楽コンクールに向けて最後の調整を行う吹奏楽部。是非とも、「武中」のプライドを高く掲げ、頑張してほしい。また、新チームとなって活動を始めている部活動は、来年の中体連に向けて、技量もさることながら「凜とした所作」を身に付けてくれることを期待したい。



市郡中学校総合体育大会の結果

(団体)

卓球男子団体 優勝

(個人)

赤石 隼大 水泳男子200m背泳ぎ第1位

〃 水泳男子100m背泳ぎ第2位

田口 隼丞 卓球男子個人第2位

【以下、クラブチームの一員として参加】

徳田 善生 空手個人組み手男子の部第2位

沖山 清剛 柔道男子階級別第1位

堀ノ江璃温 柔道男子階級別第3位

